

英語科学習指導案（3年4組）

1 単元 Let's Talk about Japanese Things. (PROGRAM 6 Sunshine English Course 3)

2 単元設定の理由

(1) 教材観

①学習指導要領上の位置付け（身に付けることができるよう指導する事項）

〔知識及び技能〕

エ(ウ)イ 現在分詞や過去分詞の形容詞としての用法

〔思考力、判断力、表現力等〕

イ 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を、選択したり抽出したりするなどして活用し、話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現すること。

②単元の価値

本単元は、外国や日本の文化についての紹介活動を通して自他国文化の理解を深めるとともに、既習や新しく学ぶ表現を活用しながら日本文化を英語で発信する力を養うものである。本単元は、マイクと由紀が日本の伝統的な絵画やおもちゃなどについてプレゼンテーションを行う場面と、祭りや年間行事、衣服、食などの日本文化に関する幅広い話題について説明をする場面で構成されている。文化の紹介を行うとき、その知識はあっても伝える相手にそれに対応する概念がない場合も多く、その場合どのような表現を用いて、どのように説明を加えれば相手に理解してもらえるのかを考えたり、分かりやすく伝えるために、聞いたり読んだりして得た情報を精査したりする必要がある。このような活動を通して、どの情報をどの既習表現を用いて伝えるかを生徒が思考、判断し、事実だけではなく自分の気持ちや感想なども含めて伝える表現力を培うことができる。

本単元の言語材料は、現在分詞及び過去分詞による後置修飾である。分詞による後置修飾を使うことで、接続詞などを用いず1文の中で簡潔に人やものについて詳しい説明を加えることができる。また、分詞による後置修飾を学習することで、何かの説明をしたりプレゼンテーションを行ったりする際に求められる、端的に物事を表現する力を高めることができる。さらに、紹介活動を友達との関わりの中で繰り返し行っていく過程を通して、相手が興味をもって聞き、より深く理解してもらうためのよりよい表現を思考・判断する力を高めることができる。

③単元の系統性

- ・ 日常的な話題については、自分や身近な人の紹介や学校紹介などを通して、話したり書いたりしながら互いに事実や考えを伝え合う活動を行ってきた。社会的な話題については、1年時に世界の祭りや年間行事を調べ文化の違いについて伝え合い、2、3年時には、世界で生じる様々な問題や環境問題について情報を収集、精査し、事実や自分の考え等を伝え合う活動を行ってきた。以上の学習活動を通して、日常的な話題や社会的な話題について情報を選択しながら事実や自分の考えを表現する力を身に付けてきた。
- ・ 本単元学習後は、PROGRAM 7 “What Is the Most Important Thing to You?”で国際貢献について、PROGRAM 8 “Clean Energy Sources”では地球環境について取り上げることで、より世界に目を向けた社会的な話題について調べ、自分の考えを提言する活動を行っていく。

(2) 生徒観（男子18名、女子16名 計34名）

- ・ 知識及び技能について、現在進行形や受動態の学習を通して現在分詞及び過去分詞の語形変化や主語と述語の関係を学習し、動詞の活用変化の知識を身に付けている。また、先行する名詞に to 不定詞を用いて説明を加える、to 不定詞の形容詞的用法の学習において、後置修飾の文型についての知識を習得している。
- ・ 思考力、判断力、表現力等については、これまでの学習を通して「習った表現を使って、自分の考えや思いを伝えられるようになった」と答えた生徒が30名いた。また、「聞く人や読む人が理解できるように配慮しながら表現するようになった」「話す人や書いた人が何を伝えたいか理解しようとしながら聞いたり読んだりするようになった」と答えた生徒が、それぞれ20名

いた。一方、今後の課題として「知らない表現や難しい表現を簡単に言い換えて伝えられるようになる」ことを挙げた生徒が19名、「聞いたり読んだりして分かったことを自分の言葉で言い換える」ことを挙げた生徒が24名いた。以上のことから、生徒は、既習表現を用いて自分の考えや思いを伝えられるようになった、相手意識をもって聞く、読む、話す、書くの活動に取り組めるようになったと実感する反面、相手に理解してもらうために既習表現を用いて簡単に言い換えるための判断、表現力に課題が残ることが分かる。これは、理解したことを基に自分の考えなどを形成することや、理解したり考えたりしたことを簡単な言葉で言い換える力が十分に身につけていないことが原因である。

(3) 指導観

- ・ネパールの学生からのビデオレターを紹介し、日本文化のどのようなことに興味をもっているかを生徒に伝えることで、本単元の活動であるネパール学生との交流会に向けたモチベーションを高め、伝える内容について具体的なイメージがもてるようにする。
- ・最終表現活動では、日本文化だけでなくネパールの文化についても調べ紹介し合う活動を取り入れることで、交流会に向けてネパール文化の事前学習ができるようにする。
- ・**Can-do List** で各領域における本単元の目標を共有することで、単元全体の計画や目標を理解し、各時間で最終表現活動での目指すべき姿を意識して学習を進めることができるようにする。
- ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況等を生徒と共有することで、友達やネパールの学生たちと文化の紹介をし合うために、より適切な言語材料を活用し、思考、判断して必要な情報を取捨選択しながら自分の考えなどを形成、再構築していけるようにする。
- ・最終表現活動に向けて学ぶ必要のある表現、伝えたい内容等を **to do list** に記入させることで、生徒が課題意識と必要感をもって本単元の学習を進められたり、必要に応じて情報を加筆修正したりできるようにする。
- ・人やものごとについて説明をするときに、接続詞を用いたり複数文で伝えたりする表現と、本単元で学習する分詞による後置修飾を用いた表現を対比させることで、分詞による後置修飾を使うほうが簡潔に人やものごとの説明ができることに気付けるようにする。
- ・教科書の音読練習や内容理解をしたり、教科書の内容を活用した発展的な表現活動を取り入れたりすることで、新出言語材料の使用場面や働きを捉え、知識及び技能の定着が図れるようにする。
- ・紹介するものをカテゴリーに分け（食、衣服、宗教、建物、おもちゃ、年間行事など）、一つのグループ（3～4人）が一つのカテゴリーを担当して紹介するようにさせることで、日本文化やネパール文化について幅広く伝え合えるようにする。
- ・**retelling** や **paraphrasing** の活動に継続的に取り組ませることで、読んだり聞いたりして理解したことや、文化についての表現を相手に分かりやすく伝えるために、自分の言葉で簡単に言い換える表現力を身に付けられるようにする。
- ・「何を」「どのように」伝えていくのかについて生徒が考えられるような課題の提示と、その課題解決を図りながら授業をすすめることで、単元を通して生徒がよりよい表現方法を追究していけるようにする。
- ・紹介活動を行うごとに聞き手から質問やコメントによるフィードバックを行う場面を設けることで、先生や友達との関わりの中で自己の表現を捉え直し、より相手に理解してもらえたり興味をもってもらえたりするような表現に改善していけるようにする。
- ・本時の課題（**Let's try / Let's think**）に対するコメントと本時で学んだ表現を **Can-do List** に毎時間記入させることで、本時での学びや考えたことを再確認できるようにする。
- ・本単元での学習を振り返り、できるようになったことや課題を自己認識し、次の活動で自分の表現を言語面、内容面においてさらに改善しようとする意欲につなげさせるため、目標に対する単元全体の振り返りを言語面と内容面で行うようにさせる。

3 単元の目標

ネパールと日本の文化について関心を高め理解を深めるために、目的・場面・状況等を踏まえて伝えたい情報を整理し、聞き手が的確に理解できるような表現の工夫をしながら文化の紹介をすることができる。

4 指導と評価の計画（別紙参照）

5 本時の展開 (6 / 7)

(1) 目標

友達との紹介活動を通して、文化を英語で紹介する際のよりよい表現方法に気付き、自己の表現を改善することができる。

(2) 展開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点及び支援・評価
<p>1 本時の課題をつかむ。 ○教師 (T2) による文化の紹介を聞き、評価する。</p>	<p>○教師による文化の紹介を聞き、evaluation sheetを用いて態度面、言語面、内容面で評価を行わせることで、紹介活動を行う際の留意点を客観的に認識し、よりよい表現方法について考えられるようにする。</p>
<p>課題：自己課題を克服し、日本文化をわかりやすく伝えよう。</p>	
<p>2 自己の課題を明確にする。 ○日本の文化の紹介をペアで行い、練習前の自分のレベルを把握する。 ・英語がすらすら言えなくて、どう言えばいいかわからない表現がある。 ・相手の目や反応を見ながら紹介する必要があるな。 ・難しい表現を使ってしまっているから、簡単に言い換えないと相手に伝わらないな。</p> <p>3 紹介活動の練習を行う。 ○生徒同士によるペアの表現練習とフィードバックを繰り返し行い、自己表現を修正したり、よいなと思った友達の表現を自己の表現に活用したりする。 ・Aくんの紹介は、分かりやすい説明を加えていたがよかったな。自分もやってみよう。 ・自分ではちょうどよい速さで話したと思っていたけど、少し早かったんだな。 ・練習をするごとに少しずつ慣れてきたけど、まだあまりうまく伝えることができないな。 ・Bさんみたいに相手が理解しているか確認しながら紹介をするとよさそうだな。 ・始めに行った紹介と比べると表現の評価があがったな。すらすら言えるようになってきたぞ。 ・相手の目を見たり理解しているかを確認したりしながら紹介したら態度面の評価が上がった。 ・実際にネパールの学生に文化の紹介をするときにも今日意識したことを忘れずに、よい発表をしよう。</p> <p>4 本時の振り返りをする。 ○本時の活動を通して考えたことや紹介活動で活用できそうな表現を振り返り、Can-do Listに書く。</p>	<p>○聞き手が理解しやすい紹介を行うために意識すべきことを考えながら本時の活動に取り組めるように、本時の課題を提示し、共有する。 ○本単元の目的、場面、状況等を全体で再度共有することで、実際のネパール学生との交流活動に向けた表現の改善ができるようにする。 ○ペアで実際に文化の紹介を行う活動に取り組みせ、evaluation sheetを用いた評価に沿ってフィードバックさせることで、練習前の自分のレベルを認識し、自己課題を克服することで表現を改善しようとする意欲をもって学習活動に臨めるようにする。 ○やりとりの中で自己の表現や課題を改善していけるように相手を変えながら繰り返し紹介活動を行わせる。 ○紹介活動が終わるごとに、生徒同士のフィードバックや自分の紹介活動について態度面、言語面、内容面で振り返る時間を設定することで、自己課題を再認識し、改善しようとしながら次の活動に取り組めるようにする。 ○英語で表現しづらかったり分からなかったりしたことについて全体でフィードバックを行うことで、次の練習で英語表現をより正確なものにできるようにする。 ○最後に、2の活動で行ったペアに戻って紹介活動を行い再度evaluation sheetを用いて評価し合わせることで、自分の表現が改善されたことを実感できるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【思考・判断・表現】 文化の紹介をする際の、態度面、言語面、内容面におけるよりよい表現方法について考え、改善することができる。 ※目標に向けて指導は行うが、記録は取らない。(観察・ワークシート)</p> </div> <p>○本時の課題に沿って言語面と内容面、態度面の視点から振り返りCan-do Listに記入させることで、どのような構成と表現で伝えるとよりよいコミュニケーションを実現できるかについて考えをまとめられるようにする。</p>
<p><振り返り> ネパール学生との交流会では、日本のことについて詳しい説明や例えを伝えたり、相手が理解しているかを確認したりしながら紹介すると、よく分かってもらえそうだな。</p>	
<p><「思考力、判断力、表現力等」育成のための具体的な手だて> Can-do Listを基にした目的・場面・状況等に対する言語面と内容面の振り返り</p>	

指導と評価の計画 英語科 3年 単元「Let's Talk about Japanese Things.」(全7時間計画)

目標	ネパールと日本の文化について関心を高め理解を深めるために、目的・場面・状況等を踏まえて伝えたい情報を整理し、聞き手が的確に理解ができるような表現の工夫をしながら文化の紹介をすることができる。				
評価規準	<p>【知識・技能】 現在分詞や過去分詞による後置修飾についての知識を身に付け、それらをコミュニケーションの場面で活用することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 伝える情報を整理し、相手に関心をもってもらったり理解してもらえたりするような表現を工夫しながら、文化の紹介をすることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 伝える内容と、それを伝えるときの表現をよりよいものにするために、意欲的に学習や活動に取り組もうとしている。</p>				
過程	時間	目標・課題	学習活動	振り返り	評価 (方法・観点)
つかむ	1	<p>◎ネパールの学生が日本文化に興味をもち、より詳しく知るにはどのようなことを伝えとよいかについて考え、本単元における自己目標をたてることができる。</p> <p>日本文化についてより詳しく伝え、興味をもってもらうには何を意識するとよいのだろう。</p>	<p>○ネパールの学生からのメッセージを聞いて、日本文化のどのようなことに興味があるのかを知る。</p> <p>○前単元での学習内容や振り返りを基に、本単元での目標を設定する。</p>	<p>☆ネパールの学生に日本文化に興味をもってもらうには相手を知りたいと思っていることを伝えたり、理解しやすい工夫をしたりしながら紹介するとよいのだな。</p>	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 相手に日本文化についてより深く知ってもらおうと、紹介の内容を考え、本単元の自己目標をたてる ことができる。 (Can-do List)</p>
追究する	3	<p>◎現在分詞や過去分詞による後置修飾についての知識を身に付け、それらを表現活動の中で活用することができる。</p> <p>どのようにすれば、人やものについて端的に表現することができるのだろう。</p> <p>「～された」ものや人について説明を加えるにはどう言えばいいのだろう。</p> <p>後置修飾を正しく使うためのポイントはなんだろう。</p>	<p>○教科書本文の内容理解やパターンプラクティスを通して、現在分詞や過去分詞による後置修飾の使用場面や働きを理解する。</p> <p>○現在分詞や過去分詞による後置修飾を使用したコミュニケーション活動に取り組む。</p> <p>○人やものに説明を加えるときの後置修飾の表現や用法を身に付ける。</p>	<p>☆分詞を使って説明を加えることで、1文で人やものについて詳しく伝えることができるんだな。</p> <p>☆「～された」と言いたいときには過去分詞を使って表現するといいいんだな。</p> <p>☆現在分詞と過去分詞では意味が違うから修飾する名詞との関係をよく考えて使い分けないといけないんだな</p>	<p>【知識・技能】 現在分詞や過去分詞による後置修飾の働きを理解したり、適切に使用したりすることができる。 (ワークシート、観察)</p>
る	1	<p>◎相手が興味をもち、理解しやすい表現について、聞き手の立場に立って考え、紹介する内容や表現、構成を工夫しようとしている。</p> <p>聞き手の興味をひくには、どのような内容や表現で紹介するとよいだろう。</p>	<p>○文化の紹介をするときどのような内容にするか相手の興味を引くのかを聞き手の立場に立って考え、構成を作る。</p>	<p>☆相手が知りたいことを中心にして、あまり長くならないように、伝える内容を選ぶ必要があるんだな。</p>	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 聞き手が興味をもち理解しやすい紹介にするために、内容や表現、構成を工夫しようとしている。 (ワークシート、観察)</p>
まとめる	1 (本時)	<p>◎友達との紹介活動を通して、文化を英語で紹介する際のよりよい表現方法に気付き、自己の表現を改善することができる。</p> <p>どうすれば、分かりやすく文化について伝えることができるだろうか。</p>	<p>○生徒同士で互いにネパールと日本の文化の紹介活動をし、互いにフィードバックをする。</p>	<p>☆相手が理解しているかを確認しながら紹介活動を行うとよさそうだな。</p> <p>☆ネパールとの交流会では、日本のことについて詳しい説明や例えを伝えるとよくわかってもらえそうだな。</p>	<p>【思考・判断・表現】 文化の紹介をする際の、態度面、言語面、内容面におけるよりよい表現方法について考え、改善することができる。 (ワークシート、観察)</p>
る	1	<p>◎話したことや聞いたことをもとに、分詞による後置修飾を適切に用いながらネパールや日本の文化についての文を書くことができる。</p> <p>日本やネパールの文化紹介を聞いて分かったことを文に書こう。</p>	<p>○ネパールと日本の文化の紹介をし合い、分かったことを文章にまとめる。</p>	<p>☆話の流れや情報の順序を意識して書くと読み手が分かりやすい文章になるな。</p> <p>☆友達を紹介を聞いて初めて知ったネパールのお祭りについて書いてみよう。</p>	<p>【思考・判断・表現】 分詞の後置修飾を適切に用いながら、自他国文化についての紹介文を書くことができる。 (ワークシート、観察)</p>